

令和 5 年度第 2 回理事会開催

－ 賦課金等の 10% 減額請求措置、6 年度も継続 －

当協会令和 5 年度第 2 回理事会が去る 10 月 26 日、KKR ホテル東京において開催された。河野会長があいさつを行った後、議長に就任して審議が行われた結果、上程された各議案はすべて原案通り承認された。

第 1 号議案『令和 5 年度上半期業務報告、収支計算報告』では、(1) 東京港における 5 年度上半期の輸入貨物の取扱数量は 892 千トン（検査・重量ベース）、前年同期比 10.5%の減少であった。本船貨物では、果実の主力であるバナナが前年同期比 0.7%の増、パイナップルは 3.2%の減、キウイフルーツは 19.8%の減、かんきつ類の輸入は今期も無かった。本船小麦は 20.1%の増加となった。一方、コンテナ貨物は 4,274 本減少し、34,577 本だった。穀類ではコメが 151 本減少したが、モルト 167 本増、コムギ 114 本増、エンバク 107 本増とムギ類が増加し、全体で 238 本増加した。豆類ではダイズが 1,071 本減、ラッカセイ 139 本減、全体で 1,302 本減少した。乾牧草はチモシーヘイ 956 本減、アルファルファヘイ 711 本減、スーダングラスヘイ 436 本減とほとんどの種類が減少し、全体では 2,372 本減少した。その他の飼料でもアルファルファヘイキューブ・ペレット 452 本減、ピートパルペレット 306 本減となった。ピートモス、ココピート等の園芸用資材が 378 本減で、前年同期比 25.4%減少した。嗜好香辛・葉染料、他食品はアーモンド 65 本増、クルミ 97 本増、タバコ 83 本増、漢方薬 195 本増、全体で 437 本増加した。野菜類は 782 本減少の 6,061 本であった。主力のタマネギが 575 本減、カボチャ 112 本減、ナガネギは 125 本増加した。果実は全体で 3,589 本と 484 本増加した。かんきつ類ではオレンジ 128 本増、GF 150 本減、レモン 3 本減だった。その他ではバナナ 147 本増、本船貨物で 2 割減少したキウイフルーツが 349 本増加した。栽植用種子が 56 本増加、切花・切葉・切枝が 211 本増加した。輸出用木材こん包材消毒証明件数は 741 件で、前年同期比 95.2%で、37 件減少となっている。(2) 25 年 6 月から賦課金、立会料の減額率を 20%にした減額請求措置を、一昨年 6 月 1 日検査分から減額率を 10%に変更した。本年度の上半期の同収入は 7,690 万円（減額の金額 838 万円）と前年同期比 9.5%減であったが、通年予算では 49%とほぼ想定通りだった。(3) 広報活動では、「東京植検だより」の発行や植物防疫所、全植検協の機関誌などを配布したほか、新しい検疫情報、現場情報をホームページ等により広く関係者に提供した。

また、各地からの数多くの質問、相談などにも適切に対応したほか、必要に応じて関係者との打ち合わせを行い、円滑、的確、かつ安全な検疫業務の推進に努めた。(4) 関係当局及び諸団体との連絡・協調を図り、特に全植検協については、河野会長が理事・副会長として、また事務局においても各種委員として、同協会の運営に協力した。また農水省植物防疫課も参加する「植物検疫関係団体連絡会」において検疫現場の状況報告、問題点提起とともに、検疫情報を直接入手した。さらに、近在協会とも定期的に連絡会を開き、意見・情報交換などに努めた。一など上半期の主要事項と収支状況について報告が行われ、本案は異議無く承認された。

第 2 号議案「賦課金等の減額請求措置の令和 6 年度の取扱いについて」(1) 平成 15 年 6 月から賦課金・立会料（輸出こん包材の消毒証明料を除く。）の一律「20%」減額請求を 6 年間行った。しかし、年度繰越額が適切な水準に近づいてきたため、平成 21 年度から減額率を「10%」に変更し、平成 25 年度から減額率を「20%」に変更した。再び年度繰越額が適切な水準に近付き、また、今後の輸入量の減少が想定されることから令和 3 年 6 月から減額率を「10%」に変更した。本措置の次年度における取扱いについては、毎年、年度前半の業務量及び収支状況などを勘案して、秋の定例理事会において協議することとされている。(2) 上半期の取扱業務量は前年同期比 10.5%減少で、上半期の賦課金等収入は、本船貨物は微増、主力のコンテナ貨物が前年より 11%減少しているが、通年予算に対して 49%の達成率となっている。しかし、前年大幅に回復した大豆が 1,000 本以上減、乾牧草等の飼料が 3,000 本以上減となっており、下期もその傾向は続くと思われ、昨年度より 4,000 本ほど減少するものと考えている。(3) 今後、想定外の支出が発生しないと仮定して、今後の経費節減に努めた場合、最終的な収支差額は、1,450 万円の赤字予算としていたが、2,100 万円ほどの赤字になると思われる。その場合、令和 5 年度末の令和 6 年度への繰越額 139 百万円程度が見込まれる。(4) この繰越額から見ると、令和 6 年度も賦課金等の 10%減額措置を継続することとしたい。

－ 本案について全員異議無く承認された。

議案（その他）「小野専務理事の定年延長について」

(1) 小野専務理事は昨年 12 月に、当協会の「常勤役員定年（65 才）」に達するため、令和 4 年度第 2 回理事会で

定年を1年延長することが承認された。引き続き、後任候補の選任及び折衝は会長に一任とされ、その後適切な後任を検討したが、候補者はいなかった。(2) 小野専務理事の定年をさらに1年延長することとしたい。

一本案について全員異議無く承認された。

その他として事務局から令和6年賀詞交歓会について、1月12日(金)12時30分から当KKRホテル東京で開催予定。後日改めて案内をお送りする旨連絡された。

植物検疫くん蒸安全旬間を実施

11月1日から11月10日の期間で植物検疫くん蒸安全旬間を実施した。本旬間は期間中に植物検疫くん蒸に携わるくん蒸施設、防除業者、当協会の三者で自主的な安全点検期間として実施しているものである。植物検疫くん蒸は植物防疫所に指定されたくん蒸倉庫やサイロで行われ、事務所や運送事業者など、くん蒸関係者以外の者が比較的近隣にいる場合があり、自主的な安全対策確認を行うことを目的としている。

当協会では安全旬間に先立ち、安全旬間期間中の啓発用ポスター(本年度のポスターは当協会の新藤職員のデザインが採用された)の関係者への配布と掲示の依頼、協会職員が輸出国側でコンテナ内にくん蒸剤を入れて輸送してきた際のガス検知業務で使用する北川式検知器具の点検・メンテナンスを業者に依頼し、使用するガスマスクの点検とガス吸収缶の交換を行った。協会では使用するガスマスクについてはこのようなメンテナンスを行っているが、労働安全衛生法施行令の一部改正にともない、令和6年4月1日の施行に合わせて「保護具着用管理責任者」を職員から選任する予定としている。



くん蒸施設については安全旬間期間中に協会職員と防除業者で訪問し、施設の安全対策やくん蒸実施時の施設内での周知方法の聞き取り、担当者の変更の有無や設備の不具合、設備工事の予定確認を行い、日頃からの植物

検疫くん蒸への理解と安全な実施における関係者への協力をお願いした。

施設訪問に際しては、横浜植物防疫所東京支所の防疫官に全ての施設に同伴していただき、オブザーバーとして安全対策に関するアドバイス等、ご協力いただいた。

安全旬間終了後、防除業者と協会で総括ミーティングを行い、旬間期間中に点検した内容や施設訪問時に実施したアドバイス等を報告、内容を共有して今後の安全対策に活かすことを確認した。

今後も植物検疫くん蒸安全旬間を通して、事故の無い検疫くん蒸を実施して頂くよう、関係各社に御協力をお願いしたい。

また、輸入者の皆様におかれましては、検査時の安全のため、コンテナ内で航海途上に貨物のくん蒸を実施されている場合には、事前に書面にて協会へのご連絡をしていただきますようお願い致します。

(業務グループ 大西 洋)

くん蒸安全旬間ポスター図案決まる



(一社)全国植物検疫協会が毎年実施している植物検疫くん蒸安全旬間ポスター図案選考会が去る9月6日にTKP神田駅前ビジネスセンターで開催された。全植検協の選考委員にくわえて、農水省担当官及びポスター印刷会社のデザイナーにより、全国の植物検疫(防疫)協会、防除業者の職員が応募した99点にのぼる作品について、厳正な審査が行われた。

その結果、最優秀賞には、当協会・新藤職員の作品が選ばれ、例年通り11月1日から10日まで実施される植物検疫くん蒸安全旬間のPR用ポスターとして、全国の関係者に配布されることになった。

なお、当協会からは10点応募し、次の作品が入賞した。

- 最優秀 新藤 尋人 (業務グループ)
- 優秀 人見 哲也 (業務グループ)
- 入選 萩原 貴史 (業務グループ)
- 入選 菊口 侑加里 (総務グループ)

会 員 ・ 役 員 の 異 動 (令和5年7月1日~令和5年9月30日)

☆入会会員

9月13日 ㈱ アイ・コーポレーション [商社] 〒162-0838 新宿区細工町3-15

☎ 03 (6457) 5247

☆退会会員

7月31日 ㈱ 山 里 食 品

タイム eye

業務グループ 生鮮キウイフルーツ輸入量増加

近年、東京港での生鮮キウイフルーツの輸入量が増加している。植物検疫統計によると、2021年は2020年の40,775トンから37,942トンに減少したが、2022年は42,416トンと増加し、過去10年間で最も多い数字となっている。また、全国的にも増加を続けており、2013年の58,699トンから2022年の112,289トンと10年間で2倍近い輸入量になっている。

現在、東京港に輸入されているキウイフルーツの生産国は多い順にニュージーランド、米国、チリ、ジョージア、韓国の5カ国であり、全体の輸入量の97%をニュージーランド産が占めている。その他の国は一時期輸入量を伸ばす時期も見られたが、現在は減少の一途をたどっている。

東京港における生鮮キウイフルーツ輸入量 単位：トン

	2020	2021	2022
ニュージーランド	38,273	36,421	41,041
米 国	2,104	1,417	1,131
チ リ	230	44	94
ジョージア	0	25	84
韓 国	168	33	64
総 計	40,775	37,942	42,416

東京港におけるニュージーランド産生鮮キウイフルーツはコンテナと専用船で輸入がされている。2020年まではコンテナでの輸入が全体の3割程度であったが、2021年と2022年は1割以下に留まっており、専用船での輸入割合が高まっていた。しかし、一転して今年はコンテナでの輸入割合が高まっている。

ところでニュージーランドでは今年2月中旬、大型サイクロン「ガブリエル」が直撃した影響で、北島において大規模な洪水被害が発生した。ニュージーランドの主要生産物であるカボチャに影響が出ており、2023年4月から7月に東京港で輸入されたニュージーランド産のカボチャは前年の2割から3割程度に留まっている。2022年秋から数回に渡って洪水被害があったため、もともと輸入量が減る見込みであったが、さらに拍車をかける形となっている。大手輸入会社が供給するキウイフルーツでも5%を占める園地が浸水し、収穫が減るとの情報もあるため、今年の輸入量は一度減少する可能性がある。

輸入量が増加している要因として、コロナ禍における「巣ごもり」の定着で家庭での消費を伸ばしたことや業界の献身的な広報活動によって、若い世代を中心にキウイフルーツは美容や健康に良いという認識が進んでいることが挙げられる。近年では果肉の赤い品種が登場する等、業界の努力も著しい。今後、バナナのように常に食卓に並ぶようなフルーツとしての地位を獲得できるか、今後の動向に注目したい。（業務グループ 新藤 尋人）

業務グループ ベトナム産パイナップル生果実初輸入

令和5年10月、“EVER COMPOSE”号にてベトナム産パイナップル生果実が東京港に輸入された。

ベトナム産のパイナップルは冷凍品や植物検疫対象外の加工品での輸入実績は多くあるが、生果実の輸入は初めてである。同国産のその他生果実については、バナナをはじめ、ココヤシ、マンゴウ等、多岐にわたって輸入されている。

同港では、バナナ専用船での相積みやコンテナで輸入されるフィリピン産パイナップルの輸入量が最多で、次いで台湾産、インドネシア産と続く。特に台湾産は2021年に中国での台湾産パイナップル輸入禁止措置を受けて、日本への輸入が急増し、ニュース等で話題になったことは記憶に新しい。フィリピン産については、通年輸入となっているが、台湾産については春先から梅雨時にかけての輸入が最盛期となっている。ベトナムではパイナップルは年間72万トン（2021年データ）生産されており、世界ランキングでは11位となっている。

パイナップルは熱帯アメリカ原産のパイナップル科の多年草で、果実は1つに見えても、実はたくさんの小さな果実が集めた果物で、ご存じの通り、熟した果実を生食することが多い。また、果汁に含まれるたんぱく質分解酵素「ブロメライン」の働きにより、肉類と一緒に摂ると、肉を胃で消化しやすくなる効果や、生肉と一緒にしておく肉を柔らかくする効果もある。



今回の輸入品は生食用での輸入だが、パイナップルは果実だけでなく葉から繊維を採って利用することがある。この繊維は白色強靱、絹糸状で、この繊維で織った布は手触りが麻に似て紗のように薄く、16世紀より独特の絹のような光沢と清涼感のある“Pina（ピーニャ）”と呼ばれている。手作りで生産され、葉から繊維を取りだし、細い糸にしたものを手で織り、織物となったピーニャは性質上機械刺繍ができないため、一針一針手で刺繍を施している為、繊細さとその優雅さからフィリピンではクイーン・オブ・ファブリックと呼ばれ、シルクよりも高級素材として尊ばれている。

（業務グループ 田地 龍之）

東京港輸入植物品目別統計表

(4月-9月累計)

品目	単位	コンテナ詰			在来船積		合計	
		本数	検査数量	不合格数量	検査数量	不合格数量	検査数量	不合格数量
栽植用植物	個	39	1,146,385	13,092	0	0	1,146,385	13,092
栽植用球根類	個	55	12,338,025	9,900	0	0	12,338,025	9,900
アマリリス	"	0	0	0	0	0	0	0
チューリップ	"	0	0	0	0	0	0	0
ユリ	"	54	10,293,225	9,900	0	0	10,293,225	9,900
栽植用種子	kg	186	1,622,123	0	0	0	1,622,123	0
草花・樹木	"	1	13,874	0	0	0	13,874	0
野菜	"	115	619,798	0	0	0	619,798	0
普通・特用作物	"	7	104,204	0	0	0	104,204	0
牧草・芝草	"	45	794,477	0	0	0	794,477	0
切花、切葉、切枝	個	1,353	188,445,475	5,102,790	0	0	188,445,475	5,102,790
アンズリューム	"	0	157,430	0	0	0	157,430	0
オンシジューム	"	91	4,056,474	130,090	0	0	4,056,474	130,090
キク	"	765	77,664,747	167,050	0	0	77,664,747	167,050
シダ(レザーフアン)	"	78	11,183,700	418,300	0	0	11,183,700	418,300
果実	kg	3,589	59,354,898	5,299,343	170,276,268	105,612,828	229,631,166	110,912,171
オレンジ	"	356	7,000,806	83,306	0	0	7,000,806	83,306
グレープフルーツ	"	199	3,916,162	121,616	0	0	3,916,162	121,616
タンジェロ(ミネオラ)	"	24	482,526	0	0	0	482,526	0
レモン	"	183	2,703,544	33,508	0	0	2,703,544	33,508
パイナップル	"	494	7,774,147	3,243,154	14,542,561	13,026,074	22,316,708	16,269,228
バナナ	"	700	11,037,150	1,665,772	131,207,216	92,586,754	142,244,366	94,252,526
マンゴウ	"	78	341,089	0	0	0	341,089	0
キーウイフルーツ	"	475	8,513,752	0	24,520,485	0	33,034,237	0
ブドウ	"	70	1,010,402	22,208	0	0	1,010,402	22,208
野菜	kg	6,061	121,544,180	219,757	0	0	121,544,180	219,757
カボチャ	"	65	1,542,518	72,000	0	0	1,542,518	72,000
サヤエンドウ(キヌサヤ)	"	6	82,846	0	0	0	82,846	0
パプリカ	"	8	83,145	5,150	0	0	83,145	5,150
メロン(ハミウリ含む)	"	62	1,079,898	0	0	0	1,079,898	0
キャベツ	"	34	1,283,774	0	0	0	1,283,774	0
セロリ	"	9	131,456	7,548	0	0	131,456	7,548
ナガネギ	"	918	13,893,255	18,000	0	0	13,893,255	18,000
ニンニクの芽	"	4	645,668	0	0	0	645,668	0
ハクサイ	"	0	0	0	0	0	0	0
ブロッコリー	"	83	928,146	47,900	0	0	928,146	47,900
レタス	"	19	234,896	0	0	0	234,896	0
タマネギ	"	2,236	53,648,350	0	0	0	53,648,350	0
ニンニク	"	339	6,235,217	62,500	0	0	6,235,217	62,500
アスパラガス	"	0	0	0	0	0	0	0
ゴボウ	"	149	4,048,120	0	0	0	4,048,120	0
サトイモ	"	2	55,000	0	0	0	55,000	0
ショウガ	"	141	2,915,739	0	0	0	2,915,739	0
ニンジン	"	723	18,905,270	0	0	0	18,905,270	0
こく類	kg	3,634	74,818,805	0	50,467,931	0	125,286,736	0
オオムギ	"	0	156	0	0	0	156	0
エンバク	"	166	3,664,435	0	0	0	3,664,435	0
コムギ	"	223	4,408,053	0	50,467,931	0	54,875,984	0
コメ	"	334	6,359,259	0	0	0	6,359,259	0
ソバ	"	88	1,707,663	0	0	0	1,707,663	0
トウモロコシ	"	178	3,417,481	0	0	0	3,417,481	0
モルト	"	2,568	53,784,903	0	0	0	53,784,903	0
まめ類	kg	4,903	98,358,503	61,000	0	0	98,358,503	61,000
エンドウ	"	21	438,476	0	0	0	438,476	0
ダイズ	"	4,606	92,693,891	60,000	0	0	92,693,891	60,000
ラッカセイ	"	158	3,089,892	0	0	0	3,089,892	0
嗜好香辛・薬染料、その他食品	kg	2,690	42,365,072	1,510	0	0	42,365,072	1,510
カカオ	"	8	6,376	0	0	0	6,376	0
コーヒー	"	91	1,343,829	510	0	0	1,343,829	510
タバコ	"	540	9,905,345	0	0	0	9,905,345	0
アーモンド	"	663	11,736,651	0	0	0	11,736,651	0
クリ	"	7	137,061	0	0	0	137,061	0
クルミ	"	327	5,693,981	0	0	0	5,693,981	0
ポップコーン	"	219	4,366,669	0	0	0	4,366,669	0
油料、肥飼料、その他雑品	kg	12,059	273,484,741	464,783	0	0	273,484,741	464,783
乾燥牧草(ヘイ)	"	9,032	212,046,278	0	0	0	212,046,278	0
アニマルフィード	"	13	94,906	0	0	0	94,906	0
アルファルファヘキューブ・ペレット	"	527	13,288,694	0	0	0	13,288,694	0
コーンコブミール	"	28	577,742	464,759	0	0	577,742	464,759
飼料用大豆カス、ペレット	"	210	4,829,978	0	0	0	4,829,978	0
ビートバルブペレット	"	101	2,420,309	0	0	0	2,420,309	0
イネワラ	"	85	1,284,796	0	0	0	1,284,796	0
ココピート	"	294	5,374,521	0	0	0	5,374,521	0
ココヤシ園芸資材	"	71	1,448,824	0	0	0	1,448,824	0
ビートモス	"	598	13,471,341	0	0	0	13,471,341	0
ミズゴケ	"	25	48,060	0	0	0	48,060	0
タケ	"	21	176,563	0	0	0	176,563	0
木材	m³	8	153	0	0	0	153	0
** 総合計 **	kg	33,122	671,548,322	6,046,393	220,744,199	105,612,828	892,292,521	111,659,221
	個	1,447	201,929,885	5,125,782	0	0	201,929,885	5,125,782
	m³	8	153	0	0	0	153	0

注) 主要品目のみ掲載。携帯品、郵便物及び他港からの荷受分は含まない。